

すずむし

Vol. 10 No. 1

倉敷昆虫同好会

1960 Sep.

目 次

表紙デザイン	友野良一	
都窪郡福田村における蝶類の分布について	榎本精二	1
ハバチオ一報	近藤光宏	4

おとしぶみ (短報)

コムスジの黒化型	岡本忠	5
テントウムシ二種の新産地	竹内幸夫	5
トラフシジミを総社市長良で採集	前田喜四雄	5
美袋でゴイシシジミを採集	前田喜四雄	5
5月にウラナシジミ	前田喜四雄	5
オオミドリシジミ♀の異状型を採集	秋山博志	5
総社市のトラフシジミ	秋山博志	5
総社市のクモガタ・オオウラギン	前田喜四雄	5
豪溪の昆虫二種	秋山博志	5
ルリモンハバチを記録	近藤光宏	6
ナガサキアゲハを追つて二年	近藤光宏	6

== 採 集 記 ==

ある私信		
(霧が峰に登らざるの記)	風早保男	7
会報 [1] 新入会員		4
会報 [2] 住所変更・退会者		8
新着交換雑誌		9
編集後記		9



都窪郡福田村における蝶類 の分布について

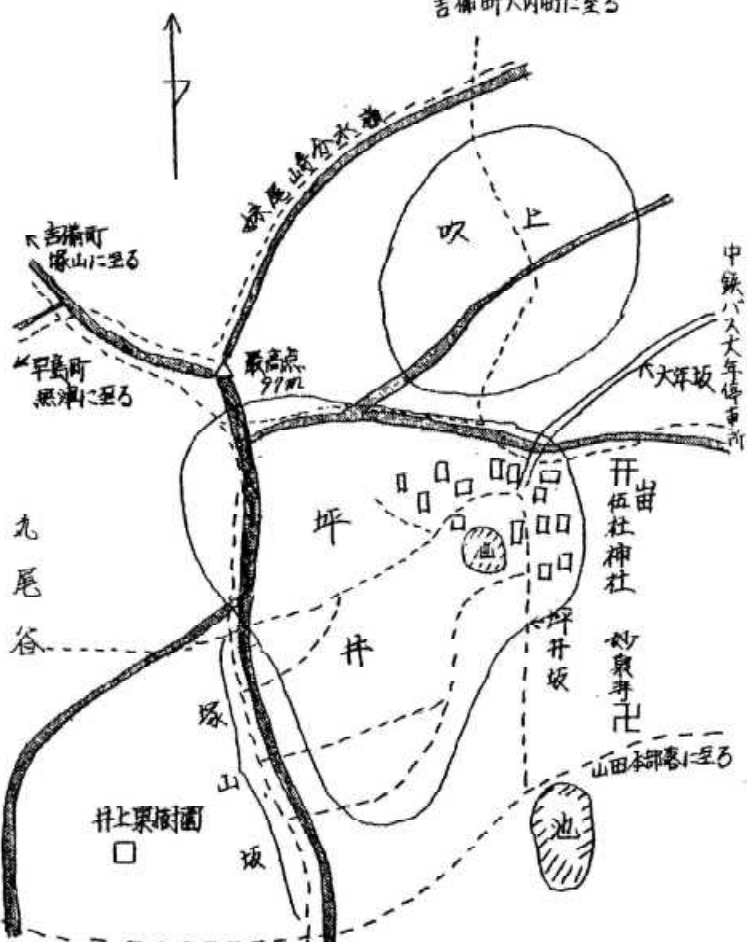


横本 精二

吉備町大内町に至る

1 位置と地形
岡山県南部にあり、岡山市の南西約7Kmの地点で岡山市とは笹ガ瀬、足守の両川をもつて境を接している。岡山市と倉敷市の間で、山陽線の南側に見える山塊の東端にある。

村内は四つの大字に別れ、大福、古新田は笹ガ瀬、足守両川の沖積層を干拓してできた土地で平坦であり、樹木も庭木程度で見るべきものがない。山田、妹尾崎は標高97mを最高点とする山塊の山裾に点々と人家が並んだ部落で、山田の内、小字高尾は山塊より400m東に離れた独立した小山塊（通称高尾山）標高30m位を取巻く部落である。丘陵性の山塊であり、頂上部は平坦に近く、樹相も豊富である。



2 昆虫相

本稿にのせた目録は1955年9月より1959年10月15日までの間に採集または目撃したものの記録である。昆虫相では特異なものはなく本州西部低山地帯に共通したものである。地名については附図を参照とせられたい。

A セセリチョウ科

- 1 ミヤマセセリ 塚山塊に産するも少し。本年の初見は4月11日。
- 2 キマダラセセリ 妹尾崎、山田の山地に産す。本年の初見は6月6日。
- 3 ホソバセセリ 山田の山地に産するも多くない。6月下旬発生。

2(2)

4. コチャバナセセリ 吹上の畑地の草花に多い。4月25日初見。
5. オオチャバナセセリ 山田の山地に産す。6月下旬発生。
6. イチモンジセセリ 山田, 妹尾崎の山地に普通10月下旬でも見られる。

B アゲハチヨウ科

7. アオスジアゲハ 全村で採れるが少い。初見は4月29日。
8. キアゲハ 山田, 高尾で産するが稀。本年初見は6月9日。
9. アゲハ 全村に普通 初見は3月31日。
10. ジャコウアゲハ 妹尾崎堤防, 坪井, 高尾山に産す。初見は4月19日。
11. クロアゲハ 全村に産す。初見は4月19日。
12. モンキアゲハ 丸尾谷にて8月下旬目撃した記録が1回だけであり, 迷蝶と思われる。
13. カラスアゲハ 坪井にて8月上旬産するが, 1958年以降発生を認めず。

C シロチヨウ科

14. モンシロチヨウ 全村に発生を見る。初見は3月3日。
15. スジグロシロチヨウ 早春全村に, 晩秋高尾山に発生す。中間には山田の山地に産するが稀。初見は3月31日。
16. ツマキチヨウ 山田, 妹尾崎の山裾に産す。初見3月31日, 終見は4月21日。
17. キチヨウ 全村に多産。初見は3月6日。
18. ツماغロキチヨウ 山田に産するが稀。初見は9月9日。夏型は採取したことがない。
19. モンキチヨウ 平地部, 堤防に多産す。初見は3月9日。

D シジミチヨウ科

20. ムラサキシジミ 山田, 妹尾崎の山地に多産。初見は4月3日。
21. ウラゴマダラシジミ 坪井の山地に産するが稀。初見は5月31日。
22. アカシジミ 高尾山, 山田の山地に産するが少い。初見は5月30日。
23. ウラナミアカシジミ 村内全山地に多産す。初見は5月30日。
24. ミズイロオナガシジミ 高尾山, 坪井に産するが少い。初見は5月30日。
25. オオミドリシジミ 高尾山, 山田の山地に産す。初見は5月30日。
26. ミドリシジミ 坪井に産するが少い。初見は7月5日♀
27. コツバメ 大年坂, 妹尾崎分水嶺に産するが少い。初見は4月3日。
28. ベニシジミ 村内全域に多産す。初見は4月1日。
29. ウラナミシジミ 高尾, 山田, 妹尾崎の山畑に産す。初見は7月30日。
30. ツバメシジミ 普通種, 初見は4月17日。ルリシジミと見分けが付き難いので, 発生はもつと早いと思う。
31. クロツバメシジミ 高尾山, 妹尾崎, 吹上に産するが少い。妹尾町には可成り発生して居る。食草はツメレンゲ。初見は4月17日。
32. ヤマトシジミ 普通種。4月上旬より発生を見る。
33. シルビヤシジミ 山田の山地, 山裾に産するが少い。初見4月28日。
34. ルリシジミ 普通種。初見は3月5日。

E ウラギンシジミ科

35. ウラギンシジミ 山田, 妹尾崎の山地に産す。初見は3月6日(越冬♀) 6月4日。

F マダラチヨウ科

36. アサギマダラ 坪井の山地で木茂れ日のさす空地に産す。初見10月13日。

G タテハチヨウ科

37. メスグロヒヨウモン 妹尾崎で1回目撃したのみ。
 38. ウラギンスジヒヨウモン 坪井の山地に産す。初見は6月19日。
 39. オオウラギンヒヨウモン 坪井に産す。少い。初見は6月30日。
 40. ツマグロヒヨウモン 妹尾崎で1回目撃したのみ。
 41. ミドリヒヨウモン 坪井の山地に産す。
 42. イチモンジチヨウ 山地に産す。初見は6月4日。
 43. コミスジ 山地に普通。初見は4月17日。
 44. ホシミスジ 山田の山地に産す。コミスジの春型と夏型の間に発生する。初見は5月30日。
 45. ヒメアカタテハ 足守川堤防, 平地部に産す。初見は4月17日(越冬成虫) 6月1日。
 46. アカタテハ 高尾山に産す。初見は2月4日(越冬成虫) 5月30日。
 47. ルリタテハ 山田の山地に産す。初見は3月25日(越冬成虫) 5月31日。
 48. ヒオドシチヨウ 高尾山に産す。初見は6月1日。
 49. キタテハ 足守川堤防, 山田の山地に産す。初見は6月21日(吉備郡高松町加茂地内足守川堤防では5月25日に大発生していた)

50. コムラサキ 大福平地部, 坪井の山地に産す。初見は6月12日。

H テングチヨウ科

51. テングチヨウ 坪井の山地に産するも少い。初見は5月31日。

I ジャノメチヨウ科

52. ヒメウラナミジャノメ 普通種。初見は4月17日。
 53. ジャノメチヨウ 山田の山地で1957・7・30迄1頭を採集, 以後発見しない。
 54. コジャノメ 山地に産するも稍少い。初見は5月10日。
 55. クロヒカゲ 山地に産す。少し。
 56. ヒカゲチヨウ 普通種。
 57. ヒメジャノメ 普通種。初見は5月30日。
 58. キマダラヒカゲ 普通種。初見は4月17日。

以上ほぼ完全な調査ができたと確信しており, 今後も機を見てより一層完全なものにしたいと思っておりますので, 諸兄の御教示を受けることができれば幸甚と思っております。

福田村における蛾の目録についても整理でき次第発表する予定です。

昆虫 植物採集用具 理化学器機

新刊書籍・雑誌・文具

岡山市西中山下(柳川交叉点東)

永瀬教育堂

電話 ② 4725

愛文社書店

倉敷市阿知町 TEL 126

ハバチ 第一報



近藤光宏

本科は、日本昆虫図鑑（北隆館）並びに、原色日本昆虫図鑑（保育社）によれば、下記の如く知られている。（）内数字は、県下において比較的採集可能と思われる種数を示す。

○ナギナタハバチ科	5 種 (1)
○ヒラタハバチ科	20 種 (5)
○ヨフシハバチ科	3 種
○ハバチ科	102 種 (36)
○マツハバチ科	6 種 (1)
○コンボウハバチ科	15 種 (5)
○ミフシハバチ科	12 種 (7)

形態的にみれば、他の膜翅目にみられるよう変態は完全であるが、ハバチの幼虫には脚がある点いささか異つている。なお本科に属するものは、名の如く幼虫は、植物の葉を食すものが多い。

成虫発生期間は、早春から晩秋にいたり、各種によつて様々であるが、多くは4～7月にみられるようである。

ハチには有益なるものと、有害のものがあるが、ハバチ類は、作物や花卉を食害するので有害である。例にたがわず、筆者の飼育ビンの中では、2月の寒さをよそに、畑より採取して来た40頭余の幼虫が、十字科植物“オオサカナ”を相手に、目下食欲の候といつたところ。本種の命名は、羽化を待たなくてはできないが、十字科植物を食害するものは、下記の3種類が知られていること、及びS 34. 5. 20 当地倉敷市連島町 1 個体、同 6. 22 山手 1 個体のセグロカブラバチの記録（同定は、兵庫農科大学助教授、奥谷順一先生にお願いした。なお標本は筆者が保管している。）とから、3種のうちのいずれかと思われる。

<i>Athalia rosae japonensis</i> Rohwer	カブラバチ
◇ <i>japonica</i> Klug	ニホンカブラバチ
◇ <i>lugens infumata</i> Marlatt	セグロカブラバチ

なお、昨年秋（1959. 10. 18～20）岡山で開かれた日本昆虫学会第19回大会の席をおかりして同定をお願いした2, 3のハバチについては整理して次号に報告する。



コムシジの黒化型

前田喜四雄採。

(前田喜四雄)

美袋でゴイシジミを採集

川ぞいの竹やぶで採集。

吉備郡昭和町下倉 1959. 6. 3 2 ex.

前田喜四雄採

吉備郡昭和町下倉 1959. 9. 30 1 ex.

前田喜四雄採

(前田喜四雄)

6月にウラナミシジミ

自宅前のエンドウに来ていたのを3, 4回逃がしてようやく採集。だんぷいたんでいた。

総社市長良 1960. 5. 2 1 ex.

前田喜四雄採

(前田喜四雄)

写真の様なコムシジの黒化異常型を得たので報告する。なお、これは飛翔中に異常と認め捕つたもので、付近にいた多くのコムシジを調べたが異常のものは他には得られなかつた。

Ⅳ, 4. 1959 吉備郡昭和町日羽

(写真は実物よりやや小さい)

(岡本 忠)

テントウムシ二種の新産地

美作地方に産する十数種のテントウムシを整理したところ、やゝ稀な種といわれる下記の種がありましたので一応県下の新産地として報告致します。

(1) *Coccinella undecimguttata*
ainu Lewis アイヌテントウ

1956年4月15日 真庭郡勝山町神庭の滝

(2) *Synharmonia hirayamai*

Hirayama ウスキホシテントウ

1959年6月2日 真庭郡新庄村野土路

(津山市林田780の1 竹内幸夫)

トラフシジミを

総社市長良で採集

長良山の頂上(88.0 m)より3 m位低い少し平になつた所で採集。少しいたんでいた。

岡山県総社市長良 1960. 4. 29 1 ex.

オオミドリシジミ♀

の異状型を採集

1959-Ⅴ-9 1♀

岡山県総社市上林山屋敷 秋山博志

このオオミドリはゼフィルス類の採集中発見したもので、前翅表面の周囲に青色の帯状紋を有している。白水先生に見てもらつたところ先生もこんな例は見たことがないとのことでした。なお、標本は筆者が保存している。

(秋山博志)

総社市のトラフシジミ

採集日 1959-Ⅴ-5 1 ex.

採集場所 岡山県総社市三須下林亀山頂上付近

採集者 秋山博志 (保存)

ウツギの花に飛来中を採集。

(秋山博志)

総社市のクモガタ・ オオウラギンの記録

- クモガタヒヨウモン
 総社市長良 1959. 5. 31 1 ex.
 前田喜四雄
- オオウラギンヒヨウモン
 総社市長良 1958. 6. 22 1 ex.
 前田喜四雄
- 総社市長良 1957. 6. 28 1 ex.
 前田喜四雄
 (前田喜四雄)

藪溪の昆虫二種

- ヤツメカミキリ
 採集年月日 1959-VII-6 1 ex.
 採集場所 岡山県総社市藪溪・モミジの
 乗上
 採集者 秋山博志
- ウラキシジミ
 採集年月日 1959-VI-20 1 ex.
 採集場所 岡山県総社市藪溪・夕方木
 の上で飛んでいたのを採集
 採集者 秋山博志
 (総社市三須中林 秋山博志)

ルリモンハナバチを記録

去る1950. 8. 2 倉敷市連島町宮之浦地内、連島山北側の谷間で本種 *Thyreus japonicus* Friese 雌雄不明1個体を記録、本種を保育社。原色日本昆虫図鑑下にとみると、「体長13 mm内外、本州、九州、対馬、南満、支那に分布する。成虫は夏季出現し花に来るが、稀な種である。寄生生活をするものであるが、まだ寄主は分っていない」とあり、当図鑑にかかげられている、みづば科10種の中では最も稀な種である。当日モンキアゲハを採集に訪れた本会小野義正君を案内していつもの谷間へやつて来た。比較的古くから開かれたこのあたりの山は、今ではほとんどみかん畑になつてゐるが、谷、峯のあたりにわずかながら開発以前の灌木が残されている。また似た類も多く、本種はわらびの葉上に静止せるものを採集した。

(倉敷市住吉町 近藤光宏)

ナガサキアゲハを追つて二年

新旧倉敷市のほぼ中央部を東西に走つて一連の山、市内在住の会員の方なら、誰でも知つている「連島山」そのふところにある模型のように小さなK小学校へ赴任したのは今を去る二年前の1958年4月のことでした。

当地方は、県下にはめずらしく柑橘が栽培されて、それも相当機械化されており、なお栽培の拡張がなされている。4~5月にかけて柑橘の開花期を迎えますが、そこを、おとずれる、アゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハ等、アゲハの類は、同市内のどこよりも多くみかけられる。開花期の春型、6~7月の夏型の頭数は、たしかに多く、校庭にあるツバキの花上で採集してくる子供達の手にするクロアゲハには、ほどほど手をやくしまつてである。

筆者も、それを裏付けるが如く、谷間の雑道に突き出ている室内に飛来した、多くのクロアゲハにまじつて、モンキアゲハ♀二頭、カラスアゲハ三頭など現在までに採集している。以上が自然的環境のあらましである。

さて、ナガサキアゲハが、四国、九州はもとより、隣接の広島県に産することはすでに読者諸兄の知るところである。またこのことについては、今を去る9年前Vol I, No 10 (1951. 9. 18)に山川東平氏の本種目録の記録がある。

氏の説によると、倉敷市住吉町で、朝顔の花上に翅を開いて静止せるものを観察しており、「前翅にはつきりと赤茶のデルタがあり、後翅には、はつきり分れた白紋があり、外縁から内縁角にはかなり鮮明な赤色の弦月紋があつて、相当新鮮な本種♀の無尾形..」の如く、個体は採集されていないが、採集は、一応可能であることを示している。

昨年(1959)の春再び、いささかの希望をいだいて出発したのであるが、その間、子供達の手もかりて飛んでいるクロアゲハの類は、手当たり次第調べたもののかなえられず、また休日には、場所を変えて、何度か採集を試みたが、結局目的は達せられなかつた。草食があつて成虫の発見されない場合は、他にもみかけられることであるが、未だ採集されていないこと及び、その後目撃されていないことを一応報告して、なお今後期待したい。

近藤光宏

◆◆◆◆◆ あ る 私 信 ◆◆◆◆◆
 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

(霧が峰に登らざるの記)

◆◆◆◆◆ 風 早 保 男 ◆◆◆◆◆

A さん

今年もクリやウツギの花が満開という季節になりました。先日は「すずむし」をありがとうございます。
 新しい学校で、心機一転して御活躍のことと思います。

6月24日、東京で日教組の会議に出席、25、26の土日があとにつづいたので、帰りを中央線にとりました。どうせ梅雨なんだから徒労をしか期待できませんが、もしも梅雨霽れの日が恵まれたとしたら、かえって season off の静かな山が楽しめるだろうと思つて、山歩きと採集の用意をしてかけたのです。一応の予定としては25日1日を霧が峰から白樺湖への山歩きときめて――。

新宿を24日17時発のオ2アルプス号に乗る。新宿・上諏訪間3時間半のスピードで快適なのだが、窓際にかけていた登山帽を吹き飛ばされたのは失敗でした。この日曇つてはいたが、東京は終日雨はなくて、武蔵野から甲州に抜ける山と谷とを楽しみました。甲府盆地のブドウ畑がつきるところから雨となり日も暮れました。20時30分上諏訪着。駅の案内所で旅館を紹介してもらい。駅の近く諏訪湖畔一帯が温泉で、500円～1500円位で割合に安い。小さな静かな宿という希望で800円のところを紹介してもらいました。熱い湯がふんだんに溢れている温泉で外に客は2、3人だけです。コイの洗い、ヒメマスの塩焼、ワカサギのフライ、フナの雀焼きといったローカル・カラーの溢れたもの愉快です。女中の話では霧が峰はまだレンゲツツジがきれいなそうですが、夕食を終るところから豪雨になつてしまいました。夜通し雨です。朝も雨です。女中が気の毒がつくれるのだがどうにもなりません。傘を借りて湖のほとりに行つてみただけです。

10時1分の塩尻行に乗るところは又一しきり激しい雨でした。予報では午后は晴れるというのですが、この雨では山に上る元気は出ません。塩尻で、準急に乗る予定を思いきつて普通にしました。どうやら雨も止みそうな気配なので、「ねざめの床」のあたりを歩くためです。木曾福島の次の上

理 生物・地学標本模型
 化学 昆虫採集用具
 コ ทีวี・ラジオ・真空管
 ー 器
 タ 機
 ー 機

島津製作所岡山県代理店
 サカエ商会

倉敷市栄町(赤木病院西) 電話 913番

理化学器械・光学器械・度量衡
 計器・採集用具

平田光学器械店

岡山市中之町27 電話 ② 5475

松(アゲマツ)で下車しました。12時30分。濁流の躍る木曾川に浴うて下ることになりました。町はずれまで歩いたところ、細い雨が少し降る程度です。小さい橋のたもとのもも木の木にとまつたり離れたりしているのはまぎれもないオオミスジ。リニツクサノクをおろしてネットをとり出していると僕の手の下をひらひらと飛び抜けて行く。やつととり出して追うと川の向こうに去つてしまつた。モンシロチョウの外にはこれかほじめてお目にかかつたのだから、急に元気になる。幸いにこのころから雨もあがつて、モンシロチョウ、モンキチョウ、キチョウ、スジグロシロチョウ、イチモンジチョウ、コムスジなどが一せいに山て来てにぎやかになり、元気のよいヒヨウモンの類もとび出して来た。

木曾川に入る小さな川に浴うて田のほとりの道に少しはいつてみる。この道でウラゴマダランジミとオオミスジを網にすることができました。もつと Zephyrus がいるのだとは思ひのようですが、何しろ道ばたの草も木々も大雨にうたれたあとなので、こちらも自由に動けないのが残念です。ヒヨウモンではウラギンとメスグロを網に人れただけです。

蝶を追っている間に^〆ねざめの床^〆は見逃してしまいました。人にきいた時はもう^〆すぐこの上です^〆。というところまで来ていました。この濁流では川床の pot hole も見えまいと思つて、そのまま川下へ歩いてしまいました。兩岸の山は、サワラ、アスナロウ、ヒノキ、コヤマキ、スギの木曾の五木の美しい林となり、谷に近くは広葉樹も相当にあります。鉄道の線路と道路の間は、ヒメジヨンとアザミの花ざかりです。天候のせい甲虫類が全然見えません。

2時ごろから日が照りはじめ、風がでて来ました。2時半ごろ、殆んど雲曇りに近い快晴となりました。採集よりも、撮影を思いついてカメラをぶらさげて歩くのですが、モデルが居ないので駄目でした。モンキチョウやイチモンジチョウではつまらないので——退屈してきたころ、アザミの花のアカタテハをとろうかと近づいていると、すぐそのとなりにクジャクチョウが美しいはねをひろげて休んでいます。あわててネットをとりなおす間に上の線路のあたりに逃げてしまいました。

3時ごろ次の駅倉本につきました。一人歩きはどうしても道を急いで疲れるようです。プラットホームの待合室にモモスズメが一つじつとまつていました。途中で一度水を呑んだところ位いたオオアヤシヤク *Terpna superans* と蛾では普通種二つだけでした。獲物は大したことはなかつたけれど、木曾の山と川とそれに家と人と、やはり歩いた俵うちにあつたように思います。

3時半の汽車に乗つて7時に名古屋について、又普通列車で岡山に帰ります。汽車の動揺がひどいので随分読みにくい手紙になりました。以上^〆霧が峰に登らざるの記^〆です。

☒ 新 着 交 換 雑 誌 ☒

ひらくら 3 (1)	: 1959. I	三重昆虫談話会
ひらくら 3 (2)	: 1959. II	三重昆虫談話会
ひらくら 3 (3)	: 1959. III	三重昆虫談話会
ひらくら 3 (4)	: 1959. V	三重昆虫談話会
ひらくら 3 (6)	: 1959. VII	三重昆虫談話会
ひらくら 3 (7)	: 1959. VIII	三重昆虫談話会
ひらくら 3 (8, 9)	: 1959. X	三重昆虫談話会
Ixalma 5	: 1959. X	三重昆虫談話会
インセクト 10 (1)	: 1959. V	昆虫愛好会
インセクト 10 (2)	: 1959. IX	昆虫愛好会
神奈川虫報 14	: 1958. XI	湘南生研昆虫談話会
陸水通信 5	: 1959. III	陸水社
陸水通信 6	: 1959. V	陸水社
TINEA 5 (1)	: 1959. V	蛾類同志会
駿河の昆虫 25	: 1959. III	静岡昆虫同好会
駿河の昆虫 26	: 1959. VI	静岡昆虫同好会
駿河の昆虫 27	: 1959. X	静岡昆虫同好会
New Insect 4 (9)	: 1959. V	北信昆虫同好会
New Insect 4 (10)	: 1959. X	北信昆虫同好会
虫と花 1	: 1959. XI	箕面自然教室

◆ 編 集 後 記 ◆

読者の皆様には、お変わりありませんか。大変おまたせしました。残暑厳しい多忙の中を一同に会し、今年度前半期の採集会が、意外に盛況を博したことなど話題の中心に、明るい希望をもつて本号に着手、ここに“すずむし”才10巻4号を机下にお届けします。

本号の特色は、なんといつても、榎本精二氏をはじめ、岡本忠氏のオトツブミ、前田喜四雄、秋山博志両君等水分さえとれば疲れを知らない高校生（本会の採集会にも河辺、小野義正両君と共に必ず参加して大活躍）と新入会員の寄稿の多くみられたことである。またこのことは、本会の皆様方が顧問の先生方の暖かい御指導をもとにして、終始御努力され、“すずむし”も過去10年発足以来、万難を制してささやかながらも、じみちで成長して今年10周年を迎えるにあたりまことに相応しいことである。近々次号を御期待下さい。（K）

すずむし 才10巻才1号 昭和35年 9月 1日 印刷
昭和35年 9月 5日 発行

編 集 兼 者 岡山大学大原農業生物研究所
発 行 者 害虫部才2研究室内
倉敷昆虫同好会

印 刷 所 岡山市国富本町248
岡崎謄写堂 TEL ㊟ 7072番